

パリという首都風景の誕生 —フランス大革命から世界大恐慌まで (1789～1933)—

第2回シンポジウム

2011年10月15日

上智大学

フランス文学科

科研プロジェクト

日仏会館共催



LE JARDIN DES TUILERIES ET LA RUE DE RIVOLI. 1ER ET 8EME ARRONDISSEMENTS

Le Jardin des Tuileries et la rue Rivoli (1er et VIIIème arr.). Vue aérienne oblique vers le Nord-Ouest. Grand Palais, Petit Palais, avenue et jardin des Champs-Élysées, Hôtel de la Marine, Pont Alexandre III, Pont de la Concorde, Pont Solférino, Place du Carrousel, rue de Rivoli, place de la Concorde, Notre-Dame-de-l'Assomption, Cour des Comptes, 1955. Photographie de Roger Henrard (1900-1975). Paris, musée Carnavalet.

開会の辞「パリという首都風景の誕生」について

1)「そぞろ歩きの首都風景パリ —通り、公園を巡って—」 北山研二

2)「日本人作家と墓地 —これもまた、巴里—」
南明日香

3)「パリの宗教建築 —首都空間の聖性—」 土居
義岳

4)「パリ万博と労働者住宅」栗田啓子

5)「オペラ座が作るパリの心象風景 —建築・演
目・幻影—」澤田肇

Cf.「パリの都市表層分析」五十嵐太郎

発表者の専門分野とその著書の一部

1) 北山研二(美学)

- フランシス・M・ナウマン、エクトール・オバルク編『マルセル・デュシャン書簡集』北山研二訳、白水社、2009.
- サルヴァドール・ダリ『ダリ著作集 ダリはダリだ』北山研二訳・解説、未知谷、2011.

2) 南明日香(比較文化)

- 『永井荷風のニューヨーク・パリ・東京 造景の言葉』翰林書房、2007.
- 『荷風と明治の都市景観』三省堂、2009.

発表者の専門分野とその著書の一部

3) 土居義岳 (建築学)

- ・P.ラヴダン『パリ都市計画の歴史』土居義岳訳、中央公論美術出版、2002.
- ・『アカデミーと建築オーダー』中央公論美術出版、2005.

4) 栗田啓子 (経済学史)

- ・『エンジニア・エコノミスト - フランス公共経済学の成立』東京大学出版会、1992.
- ・ジュール・デュピュイ『公共事業と経済学』栗田啓子訳、日本経済評論社、2001.

発表者の専門分野とその著書の一部

5) 澤田肇(仏文学)

- バルザック『鞠打つ猫の店』、『バルザック芸術／狂気小説選集① 絵画と狂気篇』澤田肇訳、水声社、2010.
- 『フランス・オペラの魅惑 舞台芸術論のための覚え書き』上智大学出版会、2012.(仮題)

6) 五十嵐太郎(建築学)

- 『美しい都市・醜い都市 現代景観論』中央公論新社(中公新書ラクレ)、2006.
- 『現代建築に関する16章 空間、時間、そして世界』講談社、2006.

科学研究費補助金プロジェクト

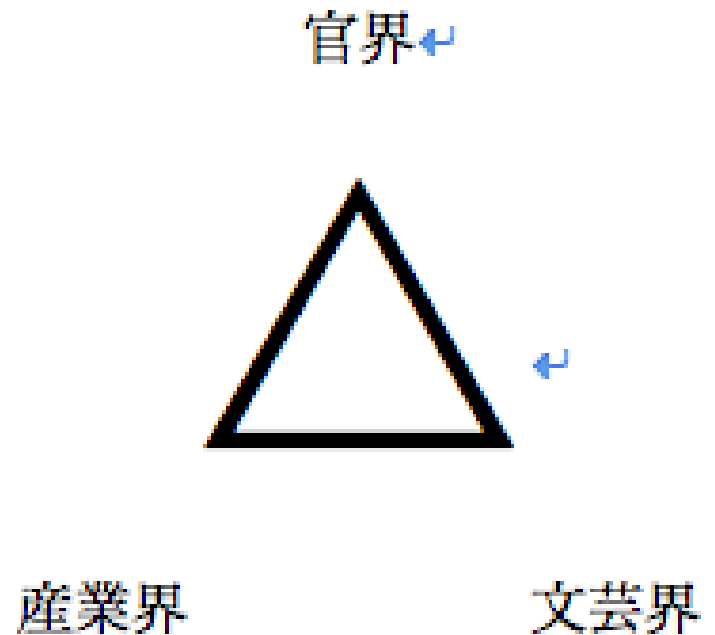
2010～2012年度：研究目的

- 「パリという首都風景の誕生」という観点から、パリがどのようにフランスの、そしてヨーロッパの首都としての外観とイメージを形成していったのかを多角的に問う。
- 検討作業を、建築学・経済学・美学・比較文学・フランス文学それぞれの専門家が、協力して複眼的思考のもとに領域横断的に進める。
- <風景を生み出す欲望のトライアングル>と言うべき、官界、産業界、文芸界の人間たちが交錯する場としてのパリを明らかにする。

近代ヨーロッパを代表する首都の風景 ＜風景を生み出す欲望のトライアングル＞

物語の主要としてのパリ

錯綜する意図の波と無意識の
流れが渦を巻く場
さまざまなヴィジョンと論理、
理想と現実、計算と偶然が
入り交じる地帯



変貌するパリ

パリらしい風景とオスマンの位置

- その変貌の足跡は、ルーヴル宮の建造の歴史と同じように、積み重ねの結果
- オスマンは根本的な変革者というより、近代化事業の総仕上げをした大胆な継承者
- 特別な位置にある都市が特別な風景を見せるという予断を抱かせる
- 世界の首都という神話の確立